

タイトル	「Palamida」でオープンソースソフトウェアの利用状況把握を
発表者	株式会社オービス総研
概要	<p>ソフトウェア開発プロジェクトの中で使っているオープンソースソフトウェア(OSS)を把握していますか？</p> <p>OSSライセンス管理ソリューション「Palamida」で診断すると、開発メンバーが把握している数の3倍以上もの種類のOSSが見つかる場合があります。</p> <p>今日、OSSの利用はソフトウェアの開発に不可欠となりつつありますが、意図せぬOSSの利用はOSSライセンス違反を招き、思わぬダメージを組織に与える可能性があります。</p> <p>高度な検出アルゴリズムとコンプライアンスライブラリ(OSSのデータベース)を備えた「Palamida」は、プロジェクトの中でのOSS利用状況を可視化し、意図せぬOSSの利用の発見を支援するためのツールです。</p> <p>株式会社オービス総研は、「Palamida」の販売・サポートのみならず、OSSの正しい利用のためのコンサルティング、各種教育・トレーニングを実施するOSS利用の総合サポーターです。</p>

タイトル	きっと見つかる。 オンリーワンの品質サービスソリューション。
発表者	株式会社シーイーシーPROVEQサービス事業部
概要	<p>弊社はJaSST'13 Tokai出展にあたり、ポスター作成に注力していません。ポスター作成に時間を費やすより、来ていただいた方と直接対話することに重点を置くべきだと考えました。(弊社:ceCの“C”はConsultingを意味しています。)</p> <p>そして対話を重ねることにより、困りごと→改善策のご提案へ繋げていきたいと思っています。</p> <p>折角の機会です。是非、我々に、あなたが現場で困っている事をご相談ください。弊社のサービスラインナップから、あなたのための品質サービスソリューションをご説明いたします。</p> <p>株式会社CEC(シーイーシー)(東証一部)  設立:昭和43年2月24日  売上高:396億5千2百万円(平成25年1月期)  従業員数:2,520名(平成25年4月1日現在)  事業内容:品質検証サービス/IT基盤サービス/ビジネス支援サービス/システム構築サービス</p>

タイトル	TEF東海合宿 第2回目
発表者	TEF東海合宿実行委員
概要	<p>ソフトウェアテスト技術者交流会(TEF: Testing Engineer's Forum)の地域部会の『TEF東海』の有志により企画された合宿型勉強会である。第2回目は、各参加者から「開発プロジェクトでの悩みや工夫したこと、感じたこと、技術や知見を素振りしたいネタ」を持ち寄り、実行委員も含む総勢9名で発信した。本発表では、下記の活動内容を報告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セッション1 「テストで問題になっていることをざっくばらんにはなしませんか？」</li> <li>・セッション2 「TEF東海原因分析道場 拡大版(ドリル本勉強会 実践編) -現場で役に立つテスト技法を身につけよう！」</li> <li>・特別セッション 「プログラム設計へのデシジョンテーブルの適用」</li> <li>・ふりかえりセッション</li> </ul>

タイトル	バグ票の改善に向けた問題事例の調査とアンチパターン化
発表者	バグ票ファーストプラクティス検討プロジェクト
概要	<p>ソフトウェア開発において、ソフトウェアやシステムの品質を確保・向上させるためには、適切なコミュニケーションが必要です。テスト担当者と開発担当者間でコミュニケーションを行うためのドキュメントの1つとして、インシデントレポート(以下、「バグ票」)があります。</p> <p>ソフトウェア開発現場では、バグ票が適切に利用されないことにより、テスト担当者と開発者の間で適切なコミュニケーションが行えず、システムの品質へ影響を与えたり、開発推進に必要な情報共有のために余計なコストがかかる場合があります。適切なバグ票の活用のためには、重要性を認識させる意図を持ち、問題バグ票の典型例を示したアンチパターンを活用した教育が有効です。しかし、バグ票のアンチパターンに関する情報は少ないのが現状です。</p> <p>今回のJaSSTでは、我々の活動を紹介すると共に、特に収集したバグ票の問題事例から見えた、組織の壁の問題について議論できればと思います。</p>

タイトル	マネジメントの新常識、ステークホルダーマネジメントとは！
発表者	PMI日本支部中部地域サービス(PMIJ中部)
概要	<p>今年PMBOK(Project Management Body Of Knowledge)第5版が発行され、新たな知識エリアとしてステークホルダー・マネジメントが加わりました。PMBOK第5版は日本語版は未発行なのですが、私たちPMIJ中部地域のステークホルダー・マネジメント分科会では、英語版を輪読し、身近な物語を通してケーススタディを実施しています。</p> <p>今回の発表では、ステークホルダー・マネジメントの手法とケーススタディをご紹介します。皆さんのテストの現場でも、きっと役立つことと思います。</p>

タイトル	ええ感じのテストレビューしようぜ
発表者	関西検証コレクション(検これ)
概要	<p>関西検証コレクション(検これ)とは、レビュー、テストといった検証系の知見を集めている団体である。</p> <p>レビューについて、目的・やりかた・体制が不明確であるという課題がある。そして体系的に学び、実践する機会も乏しい。そこで、検これコミュニティでは、テスト設計コンテストの成果物を対象にレビューを実施し、レビュー計画～レビュー実施、結果整理、次回取りまとめのサイクルを実際に試すことで、参加者のレビュープロセス・技法の理解および、テスト設計のあるべき姿について能力向上する。そして、これらを通じて得たレビュー観点・レビューのバッド・プラクティスを整理し、世の中に共有したい。</p>

タイトル	テストの品質モデルの構築の取り組み～優れたテストを作るために～
発表者	井芹 洋輝 STAR(テスト自動化研究会)
概要	<p>近年、ソフトウェアテストの自動化や継続的活用の普及が進んでいる。それに伴い重要になっているのが、継続的利用を支えるテストの保守性の作りこみや、自動テストの積極活用のためのテストの信頼性の向上といった、テストの品質の保証や評価である。</p> <p>そこで現在、そうしたテストの品質についての要求抽出や分析・評価を行うための基礎作りとして、自動テストを視野に入れたテストの品質モデルの作成を進めている。本発表ではその成果であるテストの品質モデルと、それを使ったテストの品質作りの一例を紹介する。</p>

タイトル	メトリクス勉強会 3年間の軌跡
発表者	小林光一 TEF東海 メトリクス勉強会
概要	<p>2010年から2013年の3年間をかけて私たちはメトリクスをテーマの中心に、輪読や議論を繰り返して行ってきました。</p> <p>当初は「演習で学ぶソフトウェアメトリクスの基礎」をテキストに用いて輪読や演習問題をこなしてきました。</p> <p>2012年5月に修了し、その後は持回りで事例紹介などを行ってきました。書籍から得られる知識に加え、参加メンバーの現場での体験やアイデアを意見交換することで学習効果が増し、私たちは飛躍的に成長することができました。</p> <p>2013年8月には、その集大成として同人誌を作成しました。</p> <p>私たちの3年間の軌跡と今後の展望をご紹介します。</p>